四葉のクローバーを見つけるために。

神戸学院大学 人文学部 教授
山鳥　重
ATSUSHI YAMADORI

人は考える葦である。パスカルのこのことばは、人間の本質である「考える」という特性を、一言に言い表しています。「わかる」「わからない」「わかった」「もうわけわかんない」、毎日の生活の中で数限りなく生まれる「思考」という脳の働き。それ自体は誰しもが日常的に行う作業です。しかし、「考えることについて考える」ことを探究する人間はそう多くはありません。神戸学院大学人文学部の山鳥重教授はそんな稀な人間のひとりです。

山鳥教授の研究分野は「高次機能障害学」。中でも、脳梗塞や脳出血などで脳に損傷を負い、その結果、「これまでは普通にわかっていたことが、わからなくなってしまう」という、「認知障害」と呼ばれる疾病を起こした人々の、治療やリハビリに関する研究を専門としています。認知障害の臨床に長年携わってきた山鳥教授。その経験と研究の成果を踏まえて、2002年、一冊の本を執筆しました。『「わかる」とはどういうことか』。筑摩書房より出版されたこの一冊は、当時にわかに隆盛傾向だった心理学関係の書籍の中でも、異例の好評を博しました。

たとえば、一面の草むらに四葉のクローバーを探すとします。そのためにはまず草むらに注意を向けなくてはなりません。そして一面の草むらから一本の草へ、その一本が三つ葉だったならまた隣の一本へ。意識を順次目的の方向へ移行させること。それが理解への第一歩、通常人が持つ「区別」、そして「同定」という能力を駆使した結果である、ということになります。

また、それ以前に四葉のクローバーについて、その意味、つまり「幸運を呼ぶ」という迷信(?)を知らなければ、単に葉っぱ四枚のシロツメクサです。四葉のクローバーを幸運の象徴として受け取るためには、その信仰(!)についての知識を持っていなくてはなりません。

こうした積み重ねにより、人ははじめて「わかる」を獲得します。いくつもの順序を踏まえてはじめて、草むらに見つけた四葉のクローバーに幸運の予兆を感じるわけです。

これら、人が何かについて「わかる」、「理解する」ということは一体どういうことなのか。その過程を専門的な用語や、難解なロジックを使わずに解説したこの本は、老若男女を問わず、広く「こころ」のしくみに関心のある人々の興味を喚起する力があります。

しかし、人々に広く親しまれている『「わかる」とはどういうことか』、この本は山鳥教授の研究にとっては副産物でしかありません。山鳥教授の研究の本質は、人の理解の過程、そのものにあるのではなく、その知識を手段として認知障害に苦しむ患者に治療を施すことにあります。つまり四葉のクローバーが見つかる、ということを研究するのではなく、認知障害によって四葉のクローバーが見つからなくなってしまった人のために、その「見つけかた」を再び手に入れるための治療を行うということです。

2004年に新設される人文学部人間心理学科。山鳥教授の研究は、全国にも希有な学問「医療心理学」として結実します。医療の分野で活躍する心理学のスペシャリストの育成をめざして、山鳥教授の研究成果は、次代に受け継がれようとしています。

神戸学院大学

[法学部] 法律学科・国際関係法学科　[経済学部] 経済学科・国際経済学科　[経営学部] 経営学科
[人文学部] 人間文化学科・人間行動学科・人間心理学科　[栄養学部] 栄養学科　[薬学部] 薬学科・生物薬学科
[大学院] 法学研究科・経済学研究科・人間文化学研究科・栄養学研究科・薬学研究科・食品薬品総合科学研究科
[法科大学院]

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518 TEL.078-974-1551(代)
URL http://www.kobegakuin.ac.jp

4つの「新しい」始める。
•法科大学院
•薬学研究科 医療薬学専攻
•経営学部 経営学科
•人文学部 人間心理学科
2004年4月同時開設

2005年4月開設予定 申請作業中　総合リハビリテーション学部
医療リハビリテーション学科・社会リハビリテーション学科